

職場体験 感想文コンクール2025

| | | | |
|------|-------------|-----|-------|
| タイトル | 小さな手に教わったこと | 事務局 | 538 |
| 学校名 | 明倫学園 | 氏名 | 松田 心里 |

この夏 私は「働く」という初めての体験をした特別な夏を過ごしました。

私が担当したのは、2〜3歳の園児たちでした。今回体験したのは、私が幼い頃に通っていた幼稚園で、懐かしさと新しい緊張感が混ざり合う特別な始まりになりました。

園へ入った瞬間、当時の思い出がよみがえり、「今度は守られる側ではなく支える側になるんだ」という不安感が広がりました。教室に入ると、小さな子どもたちが元気に「はっぴい」走り寄り、「はっぴいに遊ぼう!」と声をかけてくれました。その笑顔は本当にまぶしく、胸の奥にあった緊張がすくもどけていきました。

体験の中で特に心に残ったのはプールの時間とお昼寝の時間です。プールの時間では、水が顔に当たるのが怖くてプールに入るのを拒む子どももいたため、どう声をかければ安心してくれるのか考えながら接しました。私は園児の手を取り、ゆくり水に入れてあげることにしました。最初は強ばっていた表情が、少しずつやわらぎ、最後には笑顔で水に入る姿を見せてくれました。また、反対にプール遊びをやめたくない子どももいて、どの子にも気持ちを尊重しながら関わることの大切さを感じました。その変化と目の前で見て「相手のペースに合わせて寄り添うこと」の大切さを強く感じました。

お昼寝の時間では、また違った学びがありました。暗くなるたびに眠る子どももいましたが、なかなか眠れず落ち着かずにいました。私はどうすればいいのかわからなかったが、先生たちは慣れた手つきで背中を優しくトントンとし、小さな声で安心させていました。その姿はとても温かく、見ていられるままに気持ちが落ち着いていきました。子どもたちが次々と眠っていく様子を見て、安心できる空間は、丁寧なケアから生まれるんだと気づくことができました。

また、保育士さんの仕事は、子どもと遊ぶだけでなく、こどもも学びま

した。近々の準備や片付け、けんかの仲裁、安全への気配りなど、いつも先のことと考えて働かして動いていました。園児が笑顔で過ごす時間には、先生たちの見えぬ努力があることを知り、尊敬の気持ちが生ずりました。

初めは、たくさん声をかけてくれる園児に対してなかなか話してくれない園児もいたけれど園児一人一人の気持ちを聞き下せるだけ要望に答えられるように努力していると、初めはなかなか話してくれなかった園児も少しずつ心を開いてくれました。この体験は、人と関わる時に大切な姿勢を教えてくれました。

職場体験を通して私は、働くことの大変さだけでなく、「誰かを支える喜び」も知ることができました。そして、この体験を通じて私は保育士になりたいと思いました。園児たちの成長に寄り添い安心できる時間をつくる仕事に強く興味を感じたからです。これからその目標に向かって、学んだことを生かしながら努力していきます。

この夏の職場体験は、私にとって確かな成長を感じられる大切な時間でした。ここで得た気づきと憧れを胸に、これから先も前向きに進んでいきます。